

この作品は怖い内容です。登場する人間そっくりのロボットですが、その寿命は最長で20年、知力は人間並みでプログラム以外のことは考えません。肉体労働と頭脳労働など利用目的によって造り分けられ、労働力は人間の2.5倍のコストパフォーマンス(かかる費用に対しての流通効果)が見込まれていました。しかし全ての労働をロボットに任せた結果、人間は身体的に退化し、それが原因で世界中の誰も子供を作れなくなってしまうのでした。その上、思いもしなかったロボットによる反乱が起こり全人類は殺戮されます。こうしてロボットだけの世界が到来しますが、彼らには生殖能力がないため子孫を増やすことができず、絶滅を待つストーリー。

戯曲の翻訳者で医学博士の栗栖 茜氏は「チャペックは日頃から、人間は自然界に教えられて生きている。それでも解っていることはほんの少しだけ。人々は近世以降、科学技術の発達で自然など簡単に征服できる気になり、物を大量生産しスピードアップすることが幸福をもたらすと思い込んでしまった。すっかり驕り、自然界を見くびったのかも知れない」と語っています。チャペックは強い違和感を覚えたのでしょう。そこで「自然界を征服したと驕っていると、とんでもないしっぺ返しを受けますよ」と警告したかったのではないのでしょうか。機械化社会、科学技術が進む反面、労働者の失業、コミュニケーションの衰退など深刻な今日と重なる物語が100年も前に書かれていたのは驚きです。正に日野原先生の提唱と一致します。事務局だよりvol.1でご紹介した小松左京氏の作品もそうですが、チャペックは「現実を分析する力、未来を見つめる力」を十分に備えていたのだと思います。

尚、ご紹介した作品は「カレル・チャペック戯曲集Ⅰ／ロボット」のタイトルで海山社から出版されています。

お知らせ

事務局だよりは、会員の皆様の寄稿もお待ちしています。俳句や紀行文、近況報告、何でも結構です(内容によってはご相談させて頂くこともあります)。紙面を通して会員の輪をさらに深めていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。ご意見ご希望もお寄せください。お待ちしております。

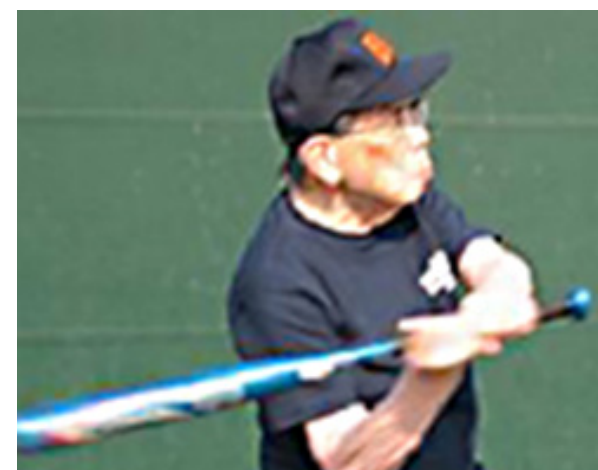
日野原重明塾「新老人の会」大分 事務局だより編集／川谷和也
〒870-0820 大分市西大道1丁目1-54-105 電話 097(576)7687
E-mail: kawatani@dream.ocn.ne.jp

日野原重明塾

「新老人の会」大分 事務局だより

Vol.3
2020.6

日野原先生のお話から／血圧チェックと若返るスポーツ観戦



日野原先生は大の野球ファン

日野原先生はよく「高齢者は白熱したスポーツ観戦では自分の血圧や脈拍に気を配るべきです」とお話しなさっていました。試合展開に夢中になりハラハラし過ぎて身体に負担をかけてはいけないというアドバイスです。「結果が分かった上でスポーツニュースの映像を楽しむと良いかも知れませんね」と付け加えられたこともありました。

ところが、その先生もついついテレビ中継に見入ったことがあるそうです。サッカーや野球がお好きなことは存じ上げていましたが、2013年のプロ野球日本シリーズ巨人×楽天第7戦では次のようなエピソードがあります。

「僕もですね～日本シリーズの中継に熱中したことがあります。昔から巨人ファンだったのですが、気がつくと楽天を応援していましたね。田中将大投手に頑張れと声援を送っていました。楽天は東日本大震災の被災地・宮城がホームグラウンドです。あの時、僕は楽天に勝ってほしかった。被災地の人たちにどれだけ笑顔と勇気と力を届けるか、歓びを届けるか、勝利を願いました。」

ひいきの巨人が負けたのに、先生は血圧のことも忘れ「楽天日本一！」を称えたそうです。被災地の方々への想いとあわせ、若さの原点である心の持ち方をお話し下さいました。

「若者は躍動感に溢れ美しい。だから若者たちは老人たちとふれ合い、彼らが若き日の高揚感を思い出し、常に新鮮な感動を持つよう喜ばせてほしい。人間は幾つ歳を重ねても心が瑞々しさを保っていれば、それが本当の若さであり、青春なのです。」

生き抜くエネルギーと「新老人」という言葉の意味を私たちの胸に届けてくださいました。

左上写真は「60歳から始めるソフトボール・日野原重明カップ」での雄姿。先生が95歳の時です。超人的なので、皆さん、これだけは真似をなさらない方が良いでしょう。

WHOやオリンピックと重なるギリシア文化

深刻な新型コロナウイルス感染症に関連してWHO(世界保健機関)や東京オリンピックの報道に触れることが多くなりました。ちょっと知っておくと興味深いギリシアの神話や語源をご紹介します。

まず毎日のように耳にするパンデミック(pandemic)は、感染症や伝染病が全国的・世界的に大流行し、非常に多くの感染者や患者が発生することを言います。

語源はギリシア語の「パンデミア」で、パンは「全て」、デミアは「人々」を意味します。

パンデミックの状況や対策を伝えるWHO事務局長の後ろには不思議なデザインの旗があります。国連マークの上に杖に巻き付いた蛇が描かれています。これはWHOのシンボルマークですが、「アスクレピオスの杖」というギリシア神話に由来しています。

アスクレピオスとは神話に登場する名医で医術の天才で、古代ギリシアでは病院を「アスクラピア」と呼んでいました。現代でも欧米では医療・医学の象徴として広く用いられています。WHOは国連機関の一つなので、前述のような旗ができました。日本を含む世界各地でも救急車の車体にも描かれてたり、米国医師会のマークにも使われています。

ちなみに蛇は「知恵」「聡明」、また脱皮することから「再生」を意味しています。

杖は「旅人」を意味します。旅を人生或いは生涯と考えていたからでしょう。古代人にとっては旅が如何に厳しかったかが伺えます。



アスクレピオス像



アスクレピオスの杖

この災禍で来年に延期した東京オリンピックも開催できるかどうかわかりませんが、オリンピックからもギリシアの物語が浮かんできます。オリンピックが、古代ギリシアで4年に1度の大神ゼウスに捧げるオリュンピアの祭典に由来することは有名です。競技のひとつマラソンはアテネの北東約40キロ離れた「マラトン」という地名からきたものです。紀元前5世紀、一人の兵士が味方の勝利を伝えるためマラトンの原野を走り続け、報告後に絶命した故事にちなんで近代マラソンが始まりました。選手の中には不運にもアキレス腱を切



テドロス・アダノム事務局長 写真：WHO 広報

る人がいるかも知れません。トロイアの勇者アキレスのたった一つの弱点は足元のこの部分でした。

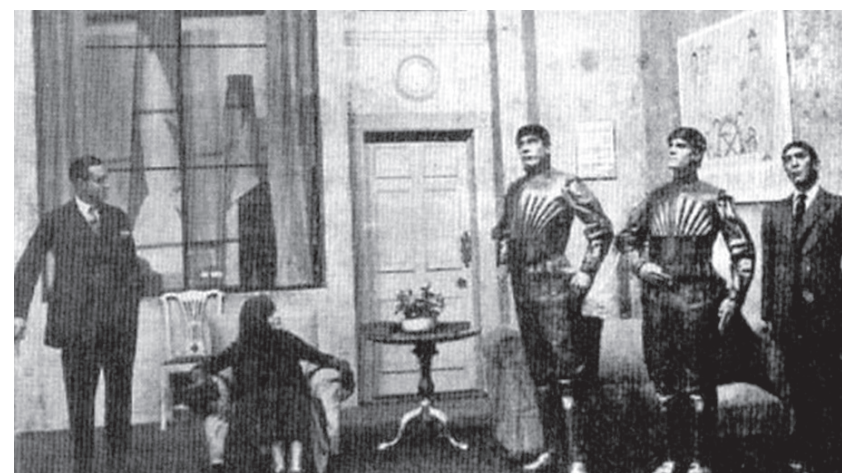
治療にモルヒネが使われたとします。19世紀に発見されたこの麻酔性鎮痛剤の名前もギリシア神話に登場する夢の神モルペウスに由来。夢のように痛みを和らげてくれることから付けられました。

アテネの広場で生まれたデモクラティア(民衆主導)に由来するデモクラシー(民主政治)等々、ギリシアに因んだお話しは切りがありません。ここに書き連ねた事柄だけでも少し意識して頂ければ嬉しいです。

未来を見つめる力 Intelligent Foresight II

「過度に成長した不健全な文明に歯止めを」・・・これは日野原先生の提唱です

ロボットが人間に取って代わる世界を描いた 100 年前の演劇



©カレル・チャペック作『R・U・R』の上演記録写真

問題は増える一方です。コンピューターやネット上のトラブルも後を絶ちません。人間が快適空間や便利さを求め過ぎた結果かも知れません。産業革命以降、多くの知識人が未来社会を危惧し警鐘を鳴らしてきました。

驚くような先見の明を持った作家もいます。例えば医療用をはじめ工業用や家庭用など日常様々な分野で触れる「ロボット」ですが、このロボットという言葉が世の中で初めて使われたのは、今から丁度100年前1920年にチェコスロバキア(現・チェコ)の首都プラハで上演された社会風刺劇です。戯曲『R・U・R/Rossum's Universal Robots/ロッサム万能ロボット会社』は国民的人気作家でジャーナリストのカレル・チャペック(1890~1938)によるもので、英語題名のロッサムという会社が製造販売する人造人間の呼び名として考案された造語でした。「労働」を意味するチェコ語“robota=ロボタ”はもともと古代スラブ語での「隷属」の意からロボットという言葉を作ったと言われています。

日野原先生の提唱に「過度に成長した不健全な文明に歯止めをかけ、与えられた自然を愛し、その恩恵を感謝し、よき生き方の普及をはかる」があります。これは経済優先の機械文明と自然界とのバランスを考えるべきというお考えだと思います。

しかし現実には地球温暖化、原発、自然環境の破壊や汚染など問題